

第8回 本町田地区新たな学校づくり基本計画検討会 議事要旨

開催日時	2022年9月16日（金） 18:02~19:38	
開催場所	本町田小学校 ランチルーム	
出席者 (敬称略)	委員	末吉委員、本田委員、渡邊委員、高柳委員、村田委員、花田委員、 日高委員、手塚委員、野口委員、越水委員、中淵委員、小原委員、本城委員、 ◎若月委員、望月委員、西山委員、○杉本委員、大谷委員 (◎会長 ○副会長)
	事務局	教育総務課、新たな学校づくり推進課、施設課、学務課、保健給食課、 指導課、教育センター
傍聴者	1名	

議事内容（敬称略）

1 第7回基本計画検討会の振り返りについて

新たな学校推進課 （資料1説明）

続いて項番の3、学校統合に伴う避難施設機能について、前回の検討会において防災課の担当者からの説明内容のうち、本町田東小学校の西側のイエローゾーンに係る説明内容について一部補足がある。

議事要旨記載の枠内の土砂災害警戒区域、通称イエローゾーンの指定は地形によって決定されるもの。一方で、土砂災害特別警戒区域、通称レッドゾーンの指定は、当該箇所の高さ、斜度、土質などから計算によって決定されるもの。このレッドゾーンは、該当箇所の工事を実施すればレッドゾーンの指定が解除され、イエローゾーンになる。イエローゾーンは、その指定の要件はあくまで地形のため、地形が変わらないとイエローゾーンの解除とならないということを補足させていただきたい。

2 本町田地区新たな学校づくり基本計画検討会報告書（案）について

新たな学校推進課 （資料の2-1、2-2説明）

2021年12月に設置をしました本検討会の委員の皆様からいただいたご意見などを本町田地区新たな学校づくり基本計画検討会報告書（案）という形でまとめている。

この報告書の内容を踏まえ、教育委員会において学校統合に向けて必要となる具体的な検討・実施内容を記載する本町田地区新たな学校づくり基本計画を策定する。

また、2023年度以降は（仮称）本町田地区新たな学校づくり準備会を設置し、引き続き地域の方、保護者の方々と一緒に統合に向けた準備事項の検討と進捗状況に関してご報告をしまいたい。こちらの会の詳細等につきましては、改めて本検討会の中でご説明をさせていただく。

3 通学の負担軽減について

新たな学校推進課 （資料の3-1～3-4説明）

資料3-1、項番1の(1)調査結果のまとめの評価項目については、路線バスをはじめとする公共交通機関を通学においての利用が可能かどうかを評価するため、本町田地区だけではなくて全市的な共通の評価項目、考え方として設定するもの。①から⑤の全5項目。

評価項目の1つ目は、通学時間。児童の居住地から統合新設校まで、おおむね30分程度で通学が可能かどうかを評価する。本町田地区においては、2025年度から2027年度までは本町田小学校、2028年度以降は現在の本町田東小学校が通学先となるが、徒歩と路線バスを利用して、これらの学校におおむね30分程度で通学が可能かどうかを確認している。

評価項目の2つ目は、路線バスの運行量。登下校時の通学時間帯、具体的には学校に8時10分までに到着できる7時台のバスの運行間隔と13時から19時台の運行間隔について、極端に運行量が少ない路線でないかどうかを確認している。

評価項目の3つ目は、乗換の有無。バス等を乗り換えることなく1路線で学校への通学が可能かどうかを確認している。

評価項目の4つ目は、路線バスの利用状況。通学時間帯におけるバスの乗車率データを基に、児童の利用に際して大きな支障がないかどうかを確認している。

評価項目の5つ目は、学校近くのバス待ちの環境。学校近くの乗降場（バス停）がきちんと歩車分離がされているかどうかを確認している。

以上の5つの項目を、路線バスを利用した通学が可能であるか否かを判断するための評価項目とさせていただいて、調査を実施した。

結果として、表の一番右の欄になりますが、これらの評価項目に照らして本町田地区の状況を確認した結果、本町田地区では路線バスを利用することが可能であると考えている。

この調査結果の詳細につきまして、資料3-2～3-4にその内容をまとめているので、そちらをご覧ください。

ご説明した評価項目や評価の考え方については、今年度中に教育委員会で最終的に決定をする予定。

委員

バスの時間帯の本数などについて調べていただいているが、今、神奈中バスも全国的なバスも、どんどん減便されていると思う。もしこの2025年、2028年に減便になった場合は、ここからまたさらに状況が悪化すると思うが、その辺はどのようになるのか。神奈中バスにお願いしますというふうに市のほうでお願いして、それが通じるものか。

新たな学校推進課 コロナ禍もあってバスの利用状況がよくないというところで、市内でも減便がされた時期がある状況ではある。今後、すごく増えるということは想定がしにくいので、この状況を維持するということが、まず目下の目標になってくると考えられる。

今後減っていくことに関しては、利用が少なくなることにに対してバスが減ってい

くという部分があるので、バスの量が少なくなるイコール混雑が増すかということそうではないかなというのが1点。それから、神奈中バスとの協議に関しては、今もさせていただいているが、2025年度、2028年度までにはまだ期間があるので、通学時間帯はこれだけの人が使うんだよということで引き続き継続的に協議をしていて確保をしていただいたり、何らかのご協力がいただけるように、こちらからもプッシュをしていきたいというふうには考えている。

委員

ちょうど今、神奈中バスとの交渉という話があったが、本数を見ていると、例えば20分置きだったりするものも、朝1本乗り遅れると結構厳しいなという印象がある。それに乗り遅れたら学校に遅刻してしまうという状況は、結構朝、切羽詰まった状況になるというのがあると思った。

もう1点、例えば通学費補助制度を利用する子の平均を取って60%だったとして、2025年のB地区で言うと55人中30人がバスに乗るといふふうに考えると、その子たちが1本のバスに乗るとなると物すごい混雑をするんじゃないかな。あと、ランドセルや荷物もあるし、乗り切れないんじゃないかなとか、混雑した場合に、やっぱり子どもたちはつり革に手が届かないので、乗車中もちょっと心配だなといういろいろ思ったりしました。

先ほど、神奈中バスとの交渉とあったが、例えば、その時間に1本だけツインライナーを出してもらえないかなとか、つり革が届かないことに対する何か対策を取ってもらえないかなといった、具体的に子どもが乗ることを想定したバス会社への交渉を何かしていけると、保護者側としての心象がいいのかなという気がした。

新たな学校推進課

今のお話の中で、連節バスは、現実ちょっと難しいかなというところもあるが、例えば、今、鶴川第一小学校の例なんかを見ますと、通学時間帯に1本通学のバスを出していただいている、そのすぐ後ろに一般の方が使うバスを出していただくみたいな、そういったダイヤの調整なんかをしていただいているようなこともある。そういったことはバス事業者さんとはちゃんと話をさせていただきながら、通学に際して安心して使えるようなご協力をお願いしていくというのは、我々のほうでも継続的にやっていきたい。

つり革はつかまれない高さにあるが、最近のバスは座席に1個ずつ、椅子の肩のところに持ち手みたいなものがついており、標準的に国で定められた仕様になっている。手すりも、それと含めて14個ぐらいはあって、手すりも一定の長さを設けることとか、低い位置につけることというのも、だんだん国のほうでも定めてきている。そういったことも併せてバス事業者にお話をしながら、何かできることを考えていければなと考えている。

委員

バスのつり革で少し疑問に思ったが、鶴一小的の児童はバスで通っている子もいるということだというのが乗ったときに座席が空いていた場合、今は座れているのか。多分、私が小さいときとかは、子どもは元気なので立っていなさいという感じで育てられてきた。空いていたら座っていいのかなというのが単純な疑問。

新たな学校推進課

特にルールはなくて、見てみますと、たくさん座っています。

委員 私は、基本的には通学路を歩いて体力づくりをしてほしいとはどちらかといえば思っている。素朴な疑問だが、この2028年度の町三小のB地区の150人の人たちの区域は、うちはどちらかというところのほうに若干入るが、このBのところの人たちはバス停まで相当距離があるので、スクールバスは出さないという認識で話が進んでいってしまうと、この人たちにはどういう対策をされる予定か。

新たな学校推進課 基本的には、考え方として、学校まで徒歩、もしくはおおむね30分程度で通えるというところに関しては徒歩か路線バスを使っていただくこととなる。確かにこのBのエリアの深いところまで行くと、例えば養運寺のバス停とか体育館前のバス停まで子どもの足で10分とか12分とか、歩くのに時間はかかってしまうが、そこからバスを使っていただいて学校近くまで行っていただいて学校に行くというのがトータルでおおむね30分程度ということであれば、今、市の考え方としては路線バスと徒歩で通っていただくようお願いしたいというところ。

委員 意見とか要望とかいうことではないが、今出されている通学、路線バスを使って実際に通い始めたときに、例えば、荷物が大変、朝の時間に間に合わなかったらどうしようなどのいろんな問題が出てくる。それは逆に言うと、これからできる新しい学校が子どもたちをどう受け止めていくかにもなる。例えば、荷物の量を減らすような方法を考えていくと。ランドセルにばんばんに詰めて毎日往復するのではなく、持ち帰る量を学校で独自に設定していくであるとか、それから、路線バスの中で座るか座らないかという問題もそうですけれども、基本的には、高齢者等がいたときは譲りましょうという気持ちはあると思うが、バスを使っている子たちには、どういうマナーで、座っていいのかということも、子どもたち任せにするのではなくて学校のほうで共通認識を持って指導していく必要もあることだなと感じる。

だから、ハードの面で固めていくだけでなく、新しい学校で受け入れる体制も整えていくということも併せて必要なことだなと思っている。例えば、今現在、3校の朝の登校時刻がどのぐらいになっているのか、これについてもいろいろ私のほうでも調べている。今までよりも通学時間が長くなっていくわけなので、できれば登校時刻を少し遅らせていこうとか、3校で少し話し合いながら、残り2年半の間で歩調を合わせるような歩みを今考えているところ。

決してバスが対応することだけじゃなくて、学校でどう受け止めていくか、その状況の中で子どもたちの安全を確保する方法も一緒に考えていきたいと思っているので、ご理解いただければと思う。

4 通学路の安全対策について

新たな学校推進課 (資料4-1~4-2)

5 本町田地区の新たな学校名の選定について

会長 前回の検討会では、各委員がよいと考える学校名を1、2案と、その理由を伺った。会の後には、事務局のほうで皆さんから挙げていただいた校名と理由や、今回の

検討会で3案程度を選定するに当たって大切にすべき考え方を取りまとめ、皆さんにその内容をご確認いただいた上で、最終的に資料5のとおり、まとめている。

これから委員の皆様には、お手元に配付をしております付箋のほうに、資料5の内容を踏まえて考えてきていただいた本町田地区の新たな学校の校名を1案ご記入いただきたい。それでは、学校名の記入を1案だけお願いしたい。

〔 ホワイトボードに付箋を貼付 〕

会長 選んだ学校名と、その校名がよいと考えた理由について、時間の関係で1分ぐらいで発表をお願いしたい。

委員 「本町田小学校」。理由は単純に、本町田地区の小学校というところで、現在ある学校名を引き継ぐとか、そういう意味合いは全くなく、ただただ地名にした。

委員 「ひなた小学校」。地名もあって子どもたちにも分かりやすいかなと思った。

委員 「ひなた小学校」。最初から「ひなた小学校」。3校絶対別の名前がいいと思って、「ひなた」と1年生から書ける、幼稚園でも書ける。みんなに周知しやすい名前。

委員 「ひなたの丘小学校」。悩んだが、「ひなたの」という、やっぱり平仮名のほうが、子どもたちが1年生のときからなじみやすいなと思うのと、「ひなたの丘」というと、本当にイメージがぱっと頭の中に浮かぶので、すごく明るい学校だなというイメージが伝わるのでいいなと思った。

委員 私は、ひなた村のイベント等で子どもが大分お世話になっている。地図で見たときに、ひなた村が日向山というふうに表記されているので、「日向ヶ丘」という名前がいいかなというふうに思ったが、今おっしゃられたひなたの丘小学校の意見とかを聞くと、子どもでも書きやすいのは「ひなたの丘小学校」とかなのかなと、今思ったところです。もともとの意見は「日向ヶ丘」ということで考えました。

委員 「ひなた小学校」。私も前回から変わらない。一番は、やはりなじみがあるのと、子どもがすぐ覚えられるのと、あとは、「ひなた」という名前にいいイメージしかないということ。ちょっと今の第一とか第二とか第三小というのは場所が全然分からない、イメージが湧かないというのがあるので、ぱっと聞いて、ここねというふうに分かる小学校がいいかなと思っている。

委員 今まで「ひなた小学校」ですっと思っていましたが、ワークショップのまとめ案の中に、地名でほかと、「ひなた」だけだと、もしかしたらほかの地域であるかもしれない。であれば、地域でかぶらないのであれば「町田ひなた小学校」はどうかかなと思った。町田市の未来を背負う、しかもひなたの丘の上のほうにあって、何となくイメージなんですけれども、子どもたちが引っ張っていかうとか、みんな行ってみたいなと思える学校になるかなと思って選んだ。

委員 「本町田ひなた小学校」。「本町田」という地名は入れたいなと。やっぱり町田の中でもどの辺にある小学校というのが分かるので、「本町田」は入れたほうがいいかなと。そこに「ひなた」をつけるのは、やはり新しい学校なので、既存の「本町田小学校」よりも「本町田ひなた小学校」のほうがいいかなと思った。

委員 私は、歴史ある「本町田」を残し、3校の学校の思いを1つに、そしてシンプルに

「本町田三校小学校」。このワークショップの8番に「本町田三小」がある。でも、「本町田三小小学校」だと「小」が2つ重なるので、「本町田三校小学校」。

委員 「日向ヶ丘小学校」。その昔、ひなた村をおつくりになった先輩たちがひなた村を残しているの、その近くの学校というイメージであれば、やはり常に日が当たり、未来に向かってすごくいいイメージの学校の名前になろうかなということでイメージした。

そして、自分は町田第三小学校の出身なので、やはり学校名ということでは、最初の時期に関しては「町田第三小学校」を残してほしいなという思いが一番強かったです。しかしながら、やっぱり3校が同時に一緒になるので、何かを残すと、どちらかという弊害が少し残ってしまうという部分では、全く別の名前というイメージで考えてみた。

委員 先ほど他の委員もおっしゃった「本町田」をやっぱり残したほうがいいかなと思いい、「本町田ひなたがおか小学校」がいいかなと。「日向ヶ丘小学校」は前回ワークショップでもありました日向ヶ丘小学校の案を頂戴した。漢字かひらがなかはお任せしたい。

委員 前回ワークショップでは、「本町田」を残したいと思ったが、ワークショップの中で「日向ヶ丘」というお話を伺って、そちらのほうがいいのかないかなというふうになり気持ちが変った。本町田小学校に長い間、お世話になっているが、どうしても残したいという気持ちがあったが、それを2つつけるとちょっと長過ぎるかなということで、今、電車の駅名でも自由が丘とか、向ヶ丘とか、何とかヶ丘というのと、それと、この本町田小学校の近辺でもみどりヶ丘などの自治会もある。

「ひなた村」でも「ひなた山」でも「ひなた小学校」でもなく、「ヶ丘」とつけるのがいいんじゃないかというふうにしたので、「ひなたヶ丘小学校」。それで、漢字よりも平仮名のほうがいいのかないかなというふうには思う。1年生から書けるようにというお話も幾つか聞いている。

委員 「本町田」を入れたいというのはすごくこだわりがあって、やっぱり本町田の3つの小学校が1つになるということで、この「本町田」というのはずっとこだわっている。一番最初に自分の中でこういう話合いの前から浮かんだのが「本町田ひなた小学校」だったが、前回、もう一つ、私のほうで出した「本町田東第三小学校」、たくさんの方の意見を読んだときに、子どもたちがとにかく3つの小学校の名前を残したいというこだわりがすごくあって、そういう意見がいっぱい載っていたのが変に感動してしまって、この2つ、どっち、どっちと悩んだ最後の最後に、子どもたちの気持ちのほうに行った。

委員 「本町田ひなた小学校」。「ひなた小学校」というのは子どもたちがたくさん選んでいた名前だったということと、あと、やはり本町田地区というのは本当に3校共通の地名。それをくっつけた形の「本町田ひなた小学校」。

委員 「ひなたの丘小学校」です。シンプルに3校の現在の名前を使わないということ、それから、ある程度地域の特定ができるということ、子どもたちに分かりやすいこ

と、明るいイメージ、優しいイメージ、前に向かっていくイメージ、新しい学校にはふさわしいのではないかなと思った。「日向ヶ丘」も考えたが、「ヶ」のやや硬い音と、「ひなたの丘」、優しい音の「の」を取ったほうがいいかなと思って「ひなたの丘」とした。

1つちょっと心配していることはありまして、漢字で「日向」と書いた場合、これが正しい読み方として認定されるのか。辞書で調べると当用漢字ではありません。常用漢字以外の扱いになっていると思うんですけども、果たしてこの漢字の使用が正式な公的な学校名として、使われるのが大丈夫なのか。この辺は教育委員会等も含めて検討をお願いしたい。今、「ひなた」という名前の子がいるが、「ひなた」と書く漢字が、ざっと180種類あるそう。当て字と言われるもの。だから、そういうことも含めて本当に正しい漢字の使い方なのかということを確認の上、選定したほうがよろしいかなと思う。

新たな学校推進課 今、お話があった校名で常用漢字以外のものを使うことが問題ないというのは確認を取った。極端な話、今回、子どもの意見募集の校名で、「ハイパーウルトラサンダー小学校」みたいな小学校名も挙がっているが、町田市として認めてしまえば問題ないことは確認をとっている。なので、漢字の「日向」も使用可能。

委員 「ひなたの丘小学校」。アンケートで、児童や保護者や地域の比較的たくさんの方々が使っているワードだったので「ひなた」ということ、「丘」というのは立地を表しているの、「ひなたの丘」。「の」というのは、やっぱり優しい感じがするので小学校にふさわしいのかなと思って、「ひなたの丘小学校」。

委員 私はこの校名に関しては、当初は全く関係ない校名がいいんだろうというふうに、統合の形が段階的になるので、そこはやっぱり一番の配慮なのかなと思ってた。前回は地名、地形も踏まえて「日向ヶ丘」なんかがいいんだろうというところでは思っていた。しかし、前回のワークショップで、やはり本町田にある学校。改めて、私は本町田小学校ですけども、そういう立場から「本町田」は入れるべきじゃないのかなというふうな遠慮も若干あったが、ワークショップのそういった地域の皆さんの想いと、ようやくこうやって3校が、本町田地域にある学校が今回1つになるということでは、やっぱり残していいのかなと思い直し、「本町田」、さらに「ひなた」という、私は平仮名表記で思っているんですけども、書きやすさとかなじみやすさとか、やはりぽかぽか温かい、この学校は地域のふるさとという学校になるようにという願いは、この「ひなた」には込められるのかなと思って、「本町田ひなた小学校」がいいのかなというふうに思った。

委員 「日向ヶ丘小学校」。意味合いとしては、皆様がおっしゃっているように、「日向」という言葉に込められている温かさ、それが一番。

それから、新校舎となる現本町田東小学校がやや道路よりも高い位置にあるところを踏まえ、「日向ヶ丘」と。私は漢字表記がいいかなというふうに思った。もうこれは完全に個人の好みで、自分で「本町田日向ヶ丘」と書いてみたときに、漢字のほうがしっかりとした、温かい中にも新しい学校としての少し力強さも表現できるの

かなというふうな気がした。本日欠席の委員から事前に伺った校名とその理由について、事務局から発表させていただきます。

新たな学校推進課 1人目は「本町田ひなた小学校」。理由は、「本町田」というところは地名をつけたい。前は「ひなたの丘」だったが、今回は、本町田というのは、みんなの意見を聞くと地名というのは大事だなということと、あの場所、やっぱりひなたの丘というぐらいしっかり日当たりもよくて、あの場所は「ひなた」という名前がしっかりとるということで、「本町田ひなた小学校」。

2人目は「本町田ひなた小学校」。「本町田」という言葉もあるが、「ひなた」自体も、その地域の特色、響きもよいという言葉。地名と一緒に使えば長く愛されて親しまれるんじゃないか。少々字が多いのかなというところは「本町田ひなた」でもあるが、「木曽境川小学校」とか「小山中央小学校」という学校名も町田市にはあるので、それもしっかり定着しているなと思えば、問題ないかなと考えている。

3人目は「ひなた小学校」。温かみがあって優しい響きで、児童にもなじみがある言葉だと思う。

4人目は、前回の資料5の内容も拝見して、皆さんの意見をなるほどと思った、皆様のご意見を尊重させていただいて、その内容にはどれも賛同しますということでご意見をいただいている。

ご欠席の方からの意見の紹介は以上。

会長 一旦ホワイトボードを使って、まずは件数を整理していきたい。

〔 休憩 〕

会長 件数は、

「本町田ひなた小学校」5件

「ひなた小学校」4件

「ひなたがおか小学校」計4件（日向ヶ丘3件、ひなたヶ丘1件）

「ひなたの丘小学校」3件

「本町田小学校」「本町田三校小学校」「本町田東第三小学校」「本町田ひなたがおか小学校」が1件ずつという形となりました。それぞれの理由を併せて考えていくと、例えば、1人ずつ出していただいた中、これはかなり「本町田」とか「町田」、地名を入れたいという思いがここは共通している。そうすると、ここの「本町田」を選んだ方も地名を残したいという思いがあるということで、そのあたりは共通しているのかなと考えられる。今日はこれを3案に絞るというつらい作業。決して1案に絞れというわけではない。

新たな学校推進課 件数の側面では、一番多かった「本町田ひなた」というのは、まず3案のうちの1案にするという考え方もあると思う。

委員 「ひなた」は平仮名か漢字か。

会長 ここの5つの案は、「ひなた」は全て平仮名になっている。なので、ここは平仮名でよろしいか。まずは順当に一番数が多かった「本町田ひなた」は3案に残すというところよろしいか。

〔 拍手 〕

会長 続いて、シンプルな「ひなた小学校」。これも平仮名で「ひなた小学校」ということだが、これは地名ということになるか、場所の名前となるかはあるが、シンプルな「ひなた小学校」、これも、今は4でしたけれども、子どもたちの意見も結構多かったように思うが、3案のうちの1案に入れることでよいか。

〔 拍手 〕

新たな学校推進課 「日向ヶ丘」と「ひなたの丘」というところについては、漢字がいいと挙げていただいた方に、漢字のよさ、漢字を選択した理由をお伺いしながら、最後の1案を確認するということもあると考えている。

委員 まず、平仮名を使った場合というのは、すごく優しくていいが、やはり向こう70年とか80年先のことを考えたら、何となく「日向」という漢字がそのまま残ったほうがいいのかなという、そういう単純なイメージだけ。自分としては。ほとんど単純なので。やはり自分としては「日向ヶ丘」、あるいは「日向の丘」、この辺の語呂がいいなと思っている。「の丘」でも構わない。

委員 個人的に言うと、「ひなた」を平仮名にしたときに、先ほど皆様がおっしゃられているように、温かさとか明るさというのが際立つなというふうに思っているが、幼稚園の名前でよく使われそうだなというのが私個人の中でイメージとして挙げてきた。小学校なので例えば高学年なんかのことを考えると、やっぱり中学校に向けて、随分この6年間で成長していく姿が見られると思うので、そういったところでは、平仮名から漢字の表記が私はいいいんじゃないかなと。ちょっとそこに力強さとか、これからスタートしていくという、そういったのも少し漢字のほうが見受けられるかなと。

もし「ひなたの丘」にするのであれば、平仮名のほうがいいのかなというふうに、皆様の意見を聞きながら、今個人的には思っている。

委員 やはり70年、100年たつ学校であれば漢字のほうが全国的、世界的に通用するよさな気がしている。

委員 自分は「ひなたの丘」と出しているが、さっき漢字のことを伺って、それは使用可なんだということだとすると、漢字で「日向（ひゅうが）」の「日向（ひなた）」を使ったほうが校章をつくる時に、左右対称の字になる。そうすると、校章の中に字が盛り込みやすい。自分で勝手に考えているだけだが。「ひなた」とするんだったら、平仮名3文字でもいいと思う。でも、「ひなたヶ丘」とか「ひなたの丘」とするときにはどうするかと。そこは漢字を使っておいたほうが、変な話、今後の便宜上の点から言っているだけだが、校章をイメージするときに盛り込みやすいなど。「ひなた」というのを校章に平仮名で入れるのはなかなか難しいかな。その辺が単純に漢字とか平仮名を使うときの利点もあるかなというふうに別の観点からの意見。

委員 私は今、漢字の日向台に住んでいる。だから、土地とかぶらないかなと、全然地域が違うので、町三小の地域で日向台というところが土地名になっているので、どうなんだろうと。私は住んでいる身なのでとてもうれしいが、関連性があるのかとか、

そういうことは関係ないかなと、ちょっと思った。

委員 漢字って、日本以外でも、中国でもある。でも、平仮名って日本にしかない独特な文字なのかなと思った。勉強不足だったら申し訳ない。単純なイメージで日本にしかないから平仮名がいいかなと思った。

委員 多数決はどうか。

会長 そうしましたら、この「日向ヶ丘小学校」「ひなたヶ丘小学校」「ひなたの丘小学校」の3案、それぞれ、挙手をしていただくことでよろしいか。

〔 異議なし 〕

会長 それでは、まず一番最初の「ひなたの丘」、この校名がこの3つのうちでいいよという方、挙手をお願いしたい。あと、ウェブの方も、もしよろしければ挙手ボタンを、そのタイミングで押していただければ。

2つ目の、漢字で「日向ヶ丘」、この校名がいいと思われる方は手を挙げていただきたい。

そうしたら、「ひなたヶ丘」という、この校名がよろしい方は手を挙げていただきたい。

委員 やはり一番、地名を選ぶのであれば、丘だったり、やっぱり「ひなた」は、何となくイメージ的に浮かんでくるので、柔らかいか、漢字だと硬いかというだけの話だと思う。逆に言うと、「ひなたの丘」でも柔らかくていいが、例えば、全国的に平仮名を使う小学校、あるいは自分たちのイメージとしては、平仮名を使っちゃうと、何となく幼稚園だったり保育園だったり、そんなところのイメージが大きい。ですので、小学校であればすみ分けして漢字を使うというのが自分の考え。

会長 もう一度、確認させていただきたい。

3案目は平仮名の「ひなたの丘小学校」が委員の方々の挙手が多かったという形になりますかね。では、3案目としては「ひなたの丘」ということでよいか。

〔 拍手 〕

会長 今日の3案に絞るといってところまででいくと、この「本町田ひなた小学校」、「ひなた小学校」、「ひなたの丘小学校」ということで、決定したい。

〔 拍手 〕

会長 10月以降、広報等で、こちらの3案について周知する際に、なぜその3案だったのかという理由も併せて周知していく。

いま一度、確認すると、「本町田ひなた」は、本町田という地名を大事にしたいという思い、あと「ひなた小学校」、これはひなた村とか、場所が分かるような学校にしたいということ、そして3つ目の「ひなたの丘」、これは柔らかいイメージ、あと地形が分かるような校名だということ、そのあたりが理由になってくるのかなというふうに思う。

それでは、本検討会で選定をしたこちらの3案について、今後どのような流れで広報を行って、最終的に1案を選定していくのか、改めて事務局から説明をお願い

したい。

新たな学校推進課 こちらの3案につきましては、今、予定として10月以降、広報し、広く市民の方々に、こちらの3案について意見をいただきたいと考えている。

また、地域の方々の集まりの場というところにも積極的に参加をさせていただいて、この3案の校名に関してご意見を伺いながら、最終的に、こちらの教育委員会のほうで1案を選定したいと考えております。

こちらの新校名の使用につきましては、本町田東小学校と本町田小学校が統合するタイミング、2025年度から新校名となるというふうな形で考えている。

6 次回検討会について

新たな学校推進課 次回の検討会につきましては、10月21日金曜日の10時から町田第三小学校での

開催を予定

会長

閉会あいさつ